

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は「学習活動（教科指導の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」の5項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても生徒の実態に合わせて目標を設定した。

#### (1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度の互見授業は例年通り1学期と2学期に実施した。ICTを活用した授業研究が進み、互見授業の参観回数は昨年度よりも増え、目標以上の回数を達成することができた。また、オンライン形式での研修が定着したことで、多忙な教員でも参加しやすくなったこともあり、外部研修の参加回数は昨年度の2倍以上に増えた。

各学期に行った生徒の学習に対する満足度は、昨年とほぼ変わらない傾向だが、1学年が例年に比べ若干上昇志向が弱めであったことが懸念される。学年では上位層を牽引役として全体の学習への意識を高めようとする雰囲気作りを進めている。2学年は互いに刺激し合って学習に取り組む雰囲気を作ることで、中だるみと言われる時期においても満足度を維持することができた。

#### (2) 「学校生活（生徒指導の充実と健康な心身の育成）」

今年度も定期的な挨拶・服装指導を行い、生徒は概ね良好な状態である。日常生活の中でもさわやかな挨拶ができるよう、今後も継続的に指導していきたい。

教育相談では、心の悩みを抱える生徒が複数いたが、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら共通理解を図り、対応することができた。また、清掃については、行事の際などに重点項目の美化に取り組むことで、限られた生徒数、教員数であっても清潔な環境を維持するよう工夫した。

#### (3) 「進路意識（進路目標の設定とその実現）」

今年度もPTA主催の「職業人が語る会」を実施することができた。また、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施し、学習の意義や進路意識を高めることができた。受験への取り組みに対する満足度は65%と、目標（60%以上）を上回って達成することができた。

#### (4) 「特別活動（ボランティアと図書）」

生徒が主体的に考え探し出したボランティア活動を行ったが、目標を達成することはできなかった。図書の活動においては、委員生徒からの強い要望があり、4年ぶりに学校祭で「来ぶらり（らいぶらり）」を復活させることができた。また、生徒の参加希望が多い「読み聞かせボランティア」では、地域の幼児たちに日本語と英語の絵本の読み聞かせをした。参加した生徒はみな充実した表情を見せていた。

#### (5) 「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」

実用英語技能検定の取得率は、目標を上回って達成することができた。GTECの目標得点に届かなかった学年もあったが、新型コロナウイルス感染症のため様々な学習活動や学校行事が中止、縮小された中で高校生生活を送った期間がある。本校の英語力向上のための独自行事等の実施も大きく制限されたことが、英語力を十分に伸ばしきれなかった要因の1つかもしれない。

国際理解教育においては、5年ぶりに英国語学研修を3月に再開することができた。参加生徒は事前研修にも熱心に取り組み、現地では積極的にコミュニケーションをとるなどして大きな成果を上げた。帰国後には、英語や異文化への興味関心が大いに高まった。

### 7 次年度に向けての課題と方策

- ・新学習指導要領と観点別評価が導入されて2年が経った。新しい方法で評価するため、授業や課題の与え方を工夫する教員が多く見られた。
- ・県下で唯一の英語コースをもつ学校として、実践的な英語力を身に付けさせるための方策を今後も研究していきたい。GTECの分野別成績では、とりわけ発信力（スピーキング、ライティング分野）の伸びが顕著であり、本校がねらいとしている実践的な英語力の向上の成果が出てきていると言える。今後もさらなる向上を目指したい。
- ・「総合的な探究の時間」については、進路学習だけにとどまらず、自ら課題を見つけ、解決しようとする姿勢を育成するような、本校らしい取り組みを模索していきたい。